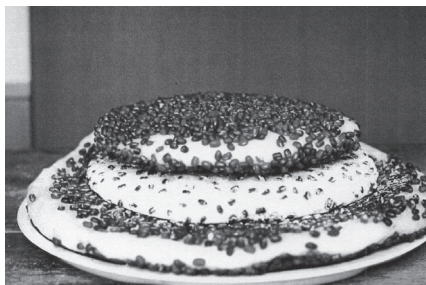
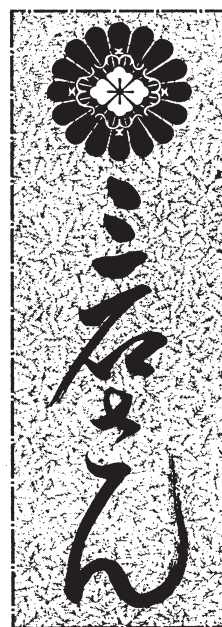




重ね真餅神饌



小豆を載せた神饌餅 (篠山市二村神社)



### 神社と餅

発行所  
 三石神社社務所  
 神戸市兵庫区  
 和田宮通3丁目2-51  
 TEL (078)671-2531  
 FAX (078)671-7667  
 E-mail info@mitsuishi.or.jp  
 URL http://mitsuishi.or.jp

○ ご家庭・会社事務所に神棚を祀りましょう。  
 ○ お伊勢さんのお神札（神宮大麻）と三石さんのお神札を合せ奉斎しましょう。  
 ○ ご神札は、毎年末もしくは新年に新しく改めてお祀りしましょう。

三石神社 宮司 小林 友博

師走の候、氏子崇敬者の皆様におかれましては、ご健勝にてご活躍のこととご同慶に存じます。又、年頭の正月より一年間各種神事行事に対しましてご崇敬ご奉献を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、神様には神饌といつて米（穀物）・酒・塩・水（酒は別として、生命維持に必須な物）は勿論のこと、祭典の大小によって餅や鯛を始め山野の物をお供えいたします。例祭時の神饌用の餅は大小の重ね真餅（混ぜ物がない餅）とし、二つ重ねるのは日月を象徴させたものとされ、さらに重ね餅を赤・白色付けする習慣は『延喜式』にも見られ、赤は陽で日を、白は陰で月を表している。この紅白餅は稲荷神社の初午祭に好んで供えられる。餅には雑穀・草類を加えた大豆餅・小豆餅・草餅・菅餅（菅で包んだ餅）などがある。小豆餅などは、例祭以外の特殊神事の神饌餅として供えられることもある。

ところで、餅について近畿圏では、滋賀県の琵琶湖大橋の東西に餅に関わる神様が祀られている。東の野洲市には大笹原神社の境内に摂社・篠原神社があり、餅の宮と称されている。祭神は石凝姥命で、命がこの地に天下り糯米を植え日の御像を作ったところ、鏡のように美しく出来たところから餅鏡、鏡餅と称されるようになり鏡餅発祥の地とされている。この地は古来良質の糯米の産地で、土地柄であるう平安時代から江戸時代に至るまで、中仙道を往来する旅人の保存食や土産品の篠原餅として知られた。もう一方の琵琶湖の西には米餅搗大使命を祀る小野神社がある。餅搗きをした最初の神様で、小野妹子・小野篁・小野道風等の小野氏族の祖神とされ、小野の地名の発祥地ともなっている。この命が応神天皇の御代に餅の元である糎（しとぎ）を作つて以来、現在に至るまで十一月二日に古式糎祭が斎行され、全国の菓子業界の参列もあるという。

糎は中国の古代周朝時代の神饌の中にも見られ、人が食べる物ではなく神への供え物であったが、糎から餅へと変化していったとされる。正月と餅の関係は深い。稲の豊作をもたらす穀霊とそれを守護する先祖霊を年

神といい、五穀豊穡を祈る農耕儀礼として鏡餅を年神様に供えた。小丸餅は年神様からの賜り物(年玉)として家族一人一人に分配した。この年玉の玉はタマ(靈魂)に通じ、餅を食することは靈魂(生命)を更新させることを意味した。子供への正月お年玉も、もともと年神様からの賜り物として始まったが、現在は神不在のお年玉の意味になっている。

現在は見られなくなったが、人生儀礼の一つ一つにも餅を搗いた。妊婦の腹帯の祝いに餅を配り、出産すれば親元から力餅、はらわた餅と呼んで餅を届けた。生後一年目には一升餅を子供に背負わせて成長を喜んだ。また秋田県などには歯固め餅といって、正月にお供えした餅を六月一日に堅い餅を食して歯の根を固め健康長寿を祈念した。平安時代末期の宮廷料理献立にも歯固め餅が見られる。

このように餅は主に晴の儀式の食であるが、正月に餅を食さない話もある。信州地方では武田信玄に年末に滅ぼされた末裔は、その苦勞を偲んで正月用餅を搗かないという。また本家で年末の餅搗きの時に火災を出した、本家の先祖が正月雑煮を食して大病を患ったなどの旧家では餅なし正月という風習を残している。但し、三が日が過ぎれば餅を搗くそうである。

民俗的行事であるが、東北地方には一年間の感謝を込めて、正月に農機具に餅を供える風習が今も残っている。また烏を山の神の使いと崇め餅を木の枝にぶら下げる烏の餅、鼠がいる商家は繁盛するとされ、商売繁盛・家業繁栄を願い、鼠の通り道に供える鼠の正月餅などの事例もある。

神社では古来より必ず重ね餅を供え、氏子崇敬者の日々の平安と繁栄を祈念しているが、昭和二十年の戦後以降の国民生活は、米国指導により何事においても徐々に西洋化し、ましてや多様化した食生活に至っては、正月に餅を食する家庭も減少しているという。日本人の生活に、晴の場に限らず餅の大切な役割を今一度思い起こしていただければと簡単ながら記した。

平成二十五年十一月

七五三詣祈禱齋行

十一月中、七五三詣祈禱を齋行した。

当社では七五三に当たる子供さんの玉串奉奠や、拝殿内での記念写真撮影も行い、千歳飴やおモチャ・風船・おみやげセット等の他にキヤラクター商品等の記念品もお渡しして大変喜ばれました。

期間中の土・日・祝日には会館二階に特設写真スタジオを設け、記念写真を撮っていただけるよう設備しています。

また、お宮参りにもご連絡頂けれ



特設スタジオでの記念写真

ばスタジオを設備いたしております。

神戸医師協同組合作業所竣工式齋行

十四日、東灘区深江浜町で、鉄骨二階建ての神戸医師協同組合深江作業所の竣工式が齋行された。

施主である神戸医師協同組合は、兵庫県医師会の会員で組織して組合員の地位向上と医療経営の支援をはじめ医療品・医療機器の販売やリネンサプライ事業など幅広く行っているが、この度病院用シート・枕カバー等の洗濯工場と事務所を新建設することとなり、設計・施工を近畿菱重興産㈱に依頼し、昨年の五月に起工



竣工式神事

地鎮祭を執り行い、無事工事も順調に進み美しい外装と延床面積約一、八七八㎡の広い工場・事務所等が竣工した。

当日は神戸医師協同組合の小柴理事長をはじめ建屋を使用する神医協興産の吉田社長、施工者の近畿菱重興産小川社長らが参列者を代表して玉串拝礼し、竣工を祝すと共に今後の深江作業所の安全と神戸医師協同組合の繁栄を祈願した。

平成二十六年一月

年頭氏子崇敬者繁栄祈願祭齋行

正月三日、第三十二回目となる「氏子崇敬者繁栄祈願祭」が総代・氏子崇敬者三十名の参列のもと厳かに斎行され、今年一年の各位の安寧と繁栄を祈願した。

本年の神前奉納は、紫月会・浜の子グループ（神戸市兵庫区金平町の自治会館で、週に一度練習会開催）の田中佳子先生による「宝舟」と、粟飯原貞子様による「悠久の歌」の民踊が奉納された。

まず粟飯原様の「悠久の歌」は、伊勢神宮の四季を歌った内容で、昨



ご神前での民踊奉納

年十月に式年遷宮が斎行されており、本年六月に氏子崇敬者共々に参拝に行く事もあり、まさに年頭に相応しい踊りであった。田中佳子先生の「宝舟」は、七福神たちの所作を表現した踊りで、締めには鶴と亀が登場する



鳥居前での記念写真

という正月に相応しい踊りであった。両先生

の民踊に参列者は盛大な拍手を送った。式典後、参列者一同破魔矢

を持ち、鳥居前にて記念写真を撮り直会に入った。

平成二十六年三月

営業所開所安全繁栄祈願祭齋行

十九日、氏子内である御崎本町四丁目で、小西医療器(株)の神戸営業所開所式が斎行された。

小西医療器は、大阪市中央区内淡路町に本社を置き、医療用機器及び器具等を販売する会社で、この度営業拡大の為、新たに神戸営業所を設けたもので、建物は鉄骨三階建てである。

当日は自社関係の小西会長・近藤社長を始め施工業者等が参列し、各代表が玉串奉奠して営業所開設を祝すと共に、今後の神戸営業所の繁栄と社員の健康活躍を祈願した。



竣工した新神戸営業所

マンション二棟同時竣工式齋行

二十五日、兵庫区吉田町一丁目神戸市密集市街地再生事業の、鉄筋コンクリート造十階建店舗付共同住宅（三十二戸）である「エクセルデュオ御崎公園リトモ」と、鉄筋コンクリート造十四階建ゲストルーム付共同住宅（五十五戸）である「エクセルデュオ御崎公園メロディア」の二棟同時竣工式が「リトモ」の駐車場で厳粛に斎行された。

事業主である(株)岡三地所が(株)瀬戸本淳建築研究室に設計・監理を依頼し、(株)岡工務店・今津建設(株)に工事

を請け負わせ、平成二十四年十一月と平成二十五年二月にそれぞれ起工地鎮祭を斎行し、無事に工事も順調に進み、美しい外装と共に全室充実した生活空間設備を備えて本日の竣工式を迎えた。

当日は事業主・地権者四名を始め関係者約四十名が参列し、厳肅な神事において、各代表が恭しく玉串奉奠して竣工を祝すと共に、入居者の今後の安全と弥栄を祈願した。



竣工した二棟のマンション

平成二十六年四月

事務所建屋竣工式斎行

八日の大安日、三菱電機㈱神戸製作所構内で鉄骨造七階建延床面積約一五、六二六㎡の五〇二棟「技術棟」



竣工式神事

の新事務所建屋の竣工式が斎行された。

施主である神戸製作所が㈱三菱地所設計に設計を依頼し、清水建設・東急建設・南海辰村建設共同企業体に工事を請け負わせ、平成二十五年四月に起工地鎮祭を執り行い、無事故にて工事も順調に進み本日の竣工を迎えた。

当日は、本社より社会システム事業本部畑辺副事業本部長を始め、六十三名の参列のもと厳肅に斎行され、各代表が玉串奉奠して竣工を祝すと共に今後の技術棟事務所の安全繁栄を祈願した。神酒拝戴後には建築施主・設計者・施工者の各代表者の挨拶も行われた。尚、報道機関の

祭典取材等もあって、翌日の新聞などに報道された。

後日、新五〇二棟への事務所移転に伴う回転機製造部の神棚移設奉安修祓式も斎行された。

平成二十六年五月

例大祭と神幸式斎行

十六日金曜日、午後六時からの例祭には、区内神職のご助勤奉仕により、総代始め氏子崇敬者二十四名の参列のもと、例年通り巫女による前神楽も奉納して厳肅に斎行した。後、会館二階にて三菱電機神戸製作所の竹本総務課長の来賓挨拶を賜り、乾杯、直会に入った。

十七日土曜日午前八時より、各地区お旅所の入魂修祓式を斎行し、午後一時半より、地区総代・氏子役員・自治会関係者の指導により、子供みこし四基が神輿唄を声高らかに唄いながら氏子町内を巡幸した。

十八日の日曜日五月晴れに恵まれ、例大祭最大の神事である神幸式が賑々しく斎行された。午後二時前より兵庫区浜山通二丁目の寺西翔太君(二十一歳)扮する猿田彦の勇壮



笠松商店街振興組合事務所前での猿田彦のお祓い

な踊りに続き、直垂装束姿の総代や保護者に付添われた十九名の稚児も行列に加わり、更に和田岬小学生達の直垂装束の神宝持役十四名、吉田中学生二十六名による本神輿昇上げ役、化粧をした宮司太刀持役である兵庫区御崎本町二丁目の中川翔馬君そして各地区子供みこし四基、総勢約二〇〇人の神幸式大行列が出発し、約二時間半かけて氏子内を巡幸した。西宮市から見学に来たご婦人は、多くの参加者の立派なお渡り神事に感嘆されていた。

午後六時から、会館二階にて神幸式奉仕三地区・猿田彦会員あわせ氏子約六十名の出席による合同直会が



スタジアム前での記念写真

約一〇〇人、小学生ら半、地元のみこしを担いで町内を巡行。十八日十四時から神幸



スタジアム前での記念写真

開催され、無事神幸式が斎行できた喜びで盛り上がっていた。尚、当社の例大祭が五月一日付神戸新聞朝刊のわがまち欄の「神戸の春祭り」に、「十七日十三時

式。猿田彦が先導し、子どもみこし四基、本みこしの約一〇〇基に渡る行列が町内を回る。出発前の境内と笠松商店街では、猿田彦による舞が披露される。」と掲載された。

新工場地鎮祭斎行

三十日、氏子内遠矢浜町で運送業をはじめ廃棄物処理等々を営業する藤定運輸(株)で二十名参列のもと、新本社工場の建設起工地鎮祭が斎行された。

新本社工場は約一、五六五㎡の鉄骨造平屋建て工場・作業場・事務所用建物となる。当日は藤定社長が穿

始の勤入の儀、設計施工の大和ハウス工業神戸支店長が鍬入れの儀を執り行った後、各代表者が玉串奉奠して、工工期間の無事故・無災害と会社の益々の弥栄を祈願した。



竣工した新工場

平成二十六年六月

神宮参拝氏子崇敬者親睦旅行

江戸時代に爆発的に起った庶民集団参詣の「お蔭参り」とは意味が異なっているが、現在は式年遷宮の翌年(本年)に参詣することを「おかげ参り」と称し、よりよいご利益が授かるとされている。そこで当社は第六十二回伊勢神宮式年遷宮にご奉賛頂いた方々にも参拝旅行案内し、八日の日曜日、宮司・禰宜をはじめ氏子崇敬者四十三名(北部氏子会十七名・南部氏子会十名・東部氏子会四名・崇敬者十二名)の参加を

得て、昨秋十月に遷御の儀が行われ、真新しいご社殿の内宮(皇大神宮)御垣内正式参拝旅行を実施した。先ず時間の都合上、神宮の伊勢神宮会館で、伊勢志摩の漁師たちが醬油タレに漬け込んだ鰹や鮪などの赤身の魚を漁の合間に船上で食したとされる郷土料理で、今は伊勢名物となっている手こね料理と伊勢の地酒を満喫した。

式年遷宮後の日曜日でもあり参拝者も多く、バス移動が出来なく徒歩で宇治橋前に向い、集合記念写真を撮って俗世を離れて内宮境内の聖域に入った。参拝手続き後、社務所来賓室に案内されてお茶を頂きつつ、神宮神職から鎮座由緒の説明を受けたのち、神楽殿のご祈祷を受けた。神楽殿では四人の巫女舞と舞楽・大和舞が奉納され、宮司に合せ拝礼した。続いて内宮御垣内に入り、参詣代表者の宮司・高田総代に併せ、一同二礼二拍手の神拝作法により参拝を終えた。参拝後は、混雑するおかげ横丁を各自散策して軽食や買物を楽しんだ。

多くの参加者から、何回か神宮には参拝したが、神楽殿のご祈祷や御



宇治橋前での記念写真

垣内参  
拜は初  
めてで  
非常に  
感激し  
た。三  
石さん  
のお蔭  
で良い  
ご利益  
も授か  
るだろ  
う。参

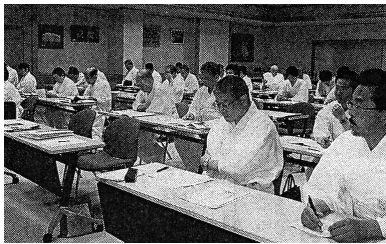
加してよかつたとのこと意見も頂戴し、  
無事帰神した。  
尚、神宮では昨秋に両正宮（皇大神宮・豊受大神宮）・第一別宮（荒祭宮・多賀宮）の遷宮が行われたが、本年から来年の春にかけ、月読宮ほか十二所の別宮での遷御の儀が執り行われる。正宮と同じく祭典の日時は天皇陛下が御治定(お定め)になる。

神道講演全国研修会に参加

二十一日、石川県・白山比咩神社で開催された三日間の神道講演会全国研修大会に権禰宜が参加した。  
今年の主題は、「今やろう！青少

年の神道教化」で、青少年に真の日本を教化する場を設ける方を模索するとともに、正しい日本語を用いて教化できるよう研鑽を深め、美(うま)し国柄を未来へ伝えるという使命に向けて有意義な大会とすることを趣旨とし、北は北海道から南は鹿児島までの一四四名の参加のもと開催された。

初日は会場である白山比咩神社の正式参拝・開講式の後、同社宮司の「感性を養う」と題する記念講演を拝聴した。実習では参加者による十分間スピーチをもとに、講師による講演構成法の講義を学んだ後、参加者がそれぞれ演題を設けて社頭での講話を想定したスピーチ実習をおこない、それに対して講師が講評した。



講習会々場

二日目  
は朝拝に  
続き、声  
を鍛える  
歌唱練習  
を行った  
後、前日  
同様の実  
習が一日  
中続いた

が、夜には懇親会が行われ参加者間の親睦が図られた。

最終日も前日同様の実習が行われた後、講師の模擬講演と参加者の五分間スピーチを実施。午後からは閉講式と総会が開催されたのち散会した。

平成二十六年七月

夏越祭(夏祭り) 齋行



茅の輪くぐり神事

十七・十八日の両日、相殿に祀る素盞鳴大神の夏越祭を斎行した。

十七日午後六時からの殿内祭典には、総代・氏子崇敬者十七名の参列のもと、例年通り上野順子琉球舞踊研究所神戸支部員による琉球舞踊二曲(カイの鳩間節、汀間当)が神前



神前奉納の琉球舞踊

奉納された後、参列者代表各位が玉串奉奠した。



更に、境内に設けた「大茅の輪くぐり」神事では、宮司・禰宜に続き参列者一同が「蘇民将来、蘇民将来」と唱えつつ左・右・左と三度くぐり夏の無病息災を祈願した

後、会館二階にて三菱神戸造船所田中課長の挨拶・乾杯発声で直会を執り行い、和やかな雰囲気の中、参列者は神職手作りで無病息災のご利益ある「蘇民将来茅の輪守」を授与されお開きとした。

平成二十六年九月

西宮神社海上渡御産宮参り齋行

二十三日、商売繁盛の神で知られ



御殿前の記念写真

西宮えびす神社（西宮神社）の海上渡御「産宮（うぶみや）参り」が例年通り実施され、神職・楽人他十六名が当社を参拝した。当日は宮司はじめ三名の総代が参道で奉迎し、当社禰宜の先導により社殿に向った。殿内神事では神前に掛鯛（麻緒で二匹の活鯛の腹側を合



参進する西宮神社産宮参り

せ結んだもの）が奉献された後、西宮神社吉井禰宜が祝詞を奏上し、参列者代表が玉串奉奠した。この「産宮参り」は平安時代から行われていたもので、江戸時代の「西宮神主日記」には、海上渡御の際当社を参詣した記事が載せられている。西宮神社では、四百年間中絶していた神事を平成十四年に復活させ、以後毎年当社を参詣している。祭典後、社殿前で記念写真を撮ったのち会館二階で暫し休息し、総代たちの見送りで帰路した。

平成二十六年十月

秋祭（天照大神祭）齋行と総代会開催

十九日午後四時、当社相殿に祀る天照皇大神の秋祭を厳肅に齋行した。天照皇大神の奉斎は、神社記録によると、二〇七年前の文化四（一八〇七）年（江戸時代）と記されている。江戸幕府も安定し世の中が落ち着いた慶安三（一六五〇）年には、神宮御師（神札・曆を各地に配布した布教神職）の働きもあって、お蔭参りと称された伊勢神宮への庶民集団参詣が起こり、明和八（一七七二）年には日本の総人口約三、一〇〇万人のうち、二〇〇万人が参詣したと記録が残されている。当然、当時商家も建ち並び繁栄していた兵庫の津からも、勝手に商家を抜け出しての「お蔭参り」に行つたことであらう。伊勢の神札を持つて帰れば咎められなかったという。そこで伊勢神宮の天照皇大神を地元の神社にも祀る気運も起こり、文化四年に当社に奉斎されたものと考えられる。当日は総代のみの参列のもと、新稲穂をはじめ秋の味覚をお供えし、「神風の伊勢の五十鈴の川上に鎮座す天照坐皇大御神を遙かに拝み奉ると共に相殿に風の戸の遠き文化四年の古より齋ひ鎮まり坐す天照皇大神の宇豆の御前に恐み恐みも白さく」との祝詞奏上に続き、各総代玉串奉奠して氏子崇敬者の平安と繁栄を祈願した。祭典終了後、本年最後の総代会を開催し、神社の現状報告と来年度の年間神社行事日程等を協議した。後、地元ノエビアスタジアム内レストラン・ウルティモで、総代ご令室も同席の直会・懇親会を開催した。

新生児命名  
平成二十五年十一月から  
平成二十六年十月まで



銅板寄進案内板



境内の奉賛芳名掲示板

趣意とお願い

現社殿は昭和三十八年に竣工して、約五十年となります。銅板の寿命は約五十年といわれています。そこで将来銅板屋根の葺き替えを行なわなければなりません。そのような事情により、皆々様に銅板寄進（一枚二千円）をお願いいたしております。

社殿銅板屋根にあなた様のお名前を残し、更なる三石大神のご加護により、貴社・貴家の益々の弥栄をご祈念申し上げます。上げたくご案内申し上げます。既にご奉納いただきました方々には重ねてのご案内となりましたことをご了承下さい。

シリーズ

社務所・境内紹介

『掛軸・神功皇后之図』

本軸は、縦一九八×横六六cmで、本紙は絹本着色の縦一一三×横五〇、五cmで、白色銀欄の天地に、風帯・上下一文字には家紋（丸に葛）

柄が用いられた上品で落ち着きのある表装である。本紙左下及び箱書には「画所預正五位下左近衛将監藤原光文」の肩書と「光文之印」の落款が見られ、土佐派の土佐光文（みつぶみ）の作品である。

土佐派は巨勢派の巨勢公望（きんもち）の門人春日基光（もとみつ）を遠祖とし、大和絵を伝承した藤原行光（ゆきみつ）を祖とする土佐派



の朝廷絵所預（えどころあずかり、画所預とも）を世襲したが、室町時代に一時絵所預職を失い、江戸時代の承応三（一六五四）年に光起（みつおき）が絵所預に就任して土佐派を中興させ、以後幕末までその地位を維持した。土佐派の画は細密画といわれ、小さな画面を微細な描写で埋め尽くす特異な手法と画風が特徴である。

多くの「神功皇后図」は、神功皇后朝鮮出兵凱旋の後、出産された誉田別尊（後の仲哀天皇）を武内宿禰が抱いている構図で、神功皇后・武内宿禰共に鎧を着けた武者姿が多い。本品は神功皇后が萌黄狩衣の上に鎧と背に矢を着け、右手に軍配、左手に弓を持ち、緋袴を穿いた武者姿であるが、武内宿禰は公家の正装である黒袍（くろほう）の衣冠束帯姿で誉田別尊を抱く構図で、神功皇后の萌黄狩衣、武内宿禰の黒袍の柄も繊細に描かれており、一見して土佐派の絵であることが知られる江戸末期頃の作品とされる。

土佐光文は幕末から明治にかけての画家で、別家二代土佐光孚（みつぎね）の次男として京都で生れ、土

佐派二十二世光祿（みつとみ）の養子となつて宗家を継ぎ画所預となる。安政二（一八五五）年の内裏造営の際には画工頭を務め、肥後介、左近衛将監等を経て幕末期には従四位下備前守となつた。東山春秋社に参加し、解散後は中島来章・塩川文麟らと如雲社を設立するなど土佐派末期を代表する画家として活躍した。明治十二（一八七九）年六十八歳で死去した。

シリーズ

書籍に見る三石さん

『三菱重工神戸造船所百年史』

三菱重工神戸造船所から社史『三菱重工神戸造船所百年史』が、平成十七年十二月に発行されている。同社社史は既に五十年史・七十五年史と二十五年毎に上梓されているが、この度は「見る」角度から写真等が多く盛り込まれ、また近年のIT化に伴うCD-ROM版も作成され添えられている。

第二編経営管理の第八章・地域社

会の状に「三石神社は、三韓征伐から凱旋してこの地に上陸された神功皇后が神託を受け広田・生田・長田



三菱重工神戸造船所百年史

の神をまつり、神宝として三個の石を置かれたことが、その名の起こりと伝えられている。」と記され、造船所設立にあたって現在の鎮座地に移動していただいたとある。第二編 沿革の第四章・二十一世紀の新たな挑戦の条に、百周年記念を迎えた平成十七年八月八日の記事として、「当日は当所守護神の末広稲荷神社に百周年記念奉告と社運隆昌安全・繁栄祈願を行った」と見え、宮司が奉仕した稲荷社境内での写真が載せられている。このように、当社が三菱

重工神戸造船所構内から移転した関係上から現在に到るまで、毎月の所長他役職員の安全・繁栄祈願参拝や構内各部各課の神棚祭を始め所内の各種神事を齎行している。

さらに第二編第三章・勤労人事の福利厚生条に、大正十二年に建設された三石倶楽部が記されているが、この三石倶楽部について、

三菱重工神戸造船所の「船舶時報」(昭和二十五年四月一日発行)の歴史と伝説の和田岬の過去(上)の条に、「会社の設立と共に鉄道支線を敷設したのが和田岬線であり、旧停車場の裏には、三石神社があったのであるが、この鉄道敷設のために、神社は現在位置に移転したのである。三石という名称は、三石神社がこの辺にあつたからして通名(三石通)となり、そこに建設されたから三石倶楽部という名称を付したのであつて現状しか知らない若い方々にはこの称呼は或いは不思議に思われるかもしれない後世「ゴジック」があつてはいけないからここに記しておく。」との当時の宮司の寄稿文が掲載されているが、昭和三十六年に三石倶楽部代替として三菱和田ク

ラブが設けられ三石倶楽部は消滅したが、現在は八号館として建っている。

当社も三菱重工神戸造船所との一世紀の関わり合いから更に新たな世紀へと、神事等の奉仕により三菱重工神戸造船所の飛躍と永遠の発展に寄与していきたい。

**平成二十七年の神社神事・行事予定**

- 一月 一日 歳旦祭(初詣)
- 一月 三日 氏子崇敬者繁栄祈願祭(谷林・山根先生・虚無僧の献争)
- 四月 十九日 氏子会総会
- 四月 二十六日 猿田彦会総会
- 五月 二十二日 例大祭
- 二十三日 地区子供みこし巡幸
- 二十四日 神幸式(おわたり)
- 六月 七日 氏子崇敬者親睦旅行(大和ミュージアム)
- 七月 十七日 夏越祭
- (琉球舞踊奉納・茅の輪くぐり)
- 十八日 (茅の輪くぐり)
- 九月 二十三日 西宮神社産宮参り
- 十月 十八日 秋祭(天照大神祭)
- 十一月 中 七五三詣
- 各月 一日 月次祭

印刷所  
**(有)前川企画印刷**  
 神戸市兵庫区永沢町三丁目三十一  
 TEL (078) 577-2488  
 (078) 577-7230  
 FAX (078) 577-7230